

## WEEKLY REPORT



- 一番のお得意様の倒産(H12. 8月)その結果は
- ・常に大企業並みの高品質な部品の製造と工場の整理整頓。
  - ・社員の独立への支援
  - ・定年後の再雇用(現在3名)
  - ・社員の平均年齢が非常に若い(28~29才)
  - ・創業社長は何の機械も使えない。

以上が事業内容の概要であります。結論、機械製造業は多忙で大変な割には設備投資に資金がかかる為、そんなに利益のある良い商売といえるかどうか？

さて本題の職業奉仕についてであります。職業奉仕の概念は何故理解しにくいのでしょうか。

・(1番目には)

職業奉仕を除く四つの奉仕活動は、クラブ全体または委員会全員での奉仕活動が多く、然も目に見て非常にわかりやすいのですが、それに比べて職業奉仕活動は会員個人個人の日常の業務そのものが職業奉仕の大部分である為、見えづらく、わかりづらいのだと考えられております。

(2番目には)

まず職業奉仕を「職業」と「奉仕」に分けてみると、少しわかりやすい様であります。「職業」は生活の糧を得るための行為であり、利己的な意味合いがあり「奉仕」とは、無償の奉仕という言葉が使われる様に利他的な意味に理解されるところに、説明が難解になったとも言われております。

つまり職業奉仕という一つの言葉に相反する二つの意味があったところに、説明が難しくなった理由があるようです。

商道德を守り、職業への誇りと責任をもって、業務事業を行うことが職業奉仕の大前提であり、それ自体が職業奉仕活動そのものであるという事が私の考える職業奉仕活動であります。

今年度我が松戸北ロータリークラブの職業奉仕活動の目標が「先義・後利」をかかげております。それは目先の事(利益)ばかりを考えず、常に相手方の事や、社員の事を考えて商売を行って行けば利益は必ず後からついてくるの意で私も同感であります。

以上、判ったような、判らないような、ではあります。私の卓話をおえさせていただきます。

最後にロータリーの大標語を(ロータリーのどの本にもあります)

- ・使う身になって作り
- ・買う身になって売り
- ・受ける身になってサービスする

これぞ職業奉仕であらう。

社会奉仕基金2,486円 《会報編集委員》大川隆永・野澤新之助・高橋修・森谷充伯

Rotary  2018-2019年度

国際ロータリー 第2790地区 第13グループ

## 松戸北ロータリークラブ会報



インスピレーションになろう

「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2237回 例会 2019年1月30日(水)

- |                  |         |           |   |
|------------------|---------|-----------|---|
| ■国際ロータリー会長       | バリー・ラシン | ■例会日      | - 毎週水曜日12:30より (第1例会18:30)              |
| ■第2790地区ガバナー     | 橋岡久太郎   | ■例会場      | - 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」                       |
| ■第13G アシスタントガバナー | 野村 充    | ■事務所      | - 松戸市八ヶ崎1-11-13 カライズ'ハイツ101             |
| ■松戸北ロータリークラブ会長   | 高橋 一彦   | ■TEL/FAX  | - 047-711-5950 / 047-711-5910           |
| ■松戸北ロータリークラブ幹事   | 小澤 直之   | ■Web/Mail | - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp |

## WEEKLY REPORT

### <第2237回 例会プログラム>

司会 沖昌彦

12:30	点鐘 ロータリーソング斉唱【♪我等の生業】	高橋一彦会長
12:35	会食	
13:00	例会再開 会長挨拶 幹事報告	高橋一彦会長 小澤直之幹事
13:10	卓話	小林 弘会員
13:25	社会奉仕基金発表 ニコニコ発表	大塚精一委員長 関征啓委員
13:30	点鐘	高橋一彦会長

### <クラブ会長挨拶:高橋一彦会長>

先週の新聞記事よりゲーム依存の低年齢化について話題を提供させていただきます。

今年5月の世界保健機関(WHO)総会において、スマートフォンなどのゲームにのめり込み、日常生活に支障をきたす症状を世界的に「病気」として認め、正式決定されるそうでもあります。

ゲーム障害(gaming disorder)は国内ではゲーム依存と呼ばれることが多く、WHOの改訂版国際疾病分類の最終案に精神疾患の一種として明記されるとの事です。  
ゲームの開始や終了、頻度、期間、熱中度などを自ら制御できないことや、日常の関心事や日々の活動よりゲームを優先、仕事などに重大な問題を引き起こしているにも関わらずゲームを続けるなど、他にも判断基準に値する項目がございますが、幾つかに当てはまることで「依存症」と判断される様でございます。

また、LINEやツイッターなどのSNSによるネット依存は、ゲーム依存とは別に「その他の嗜癖行動による障害」として分類されるそうです。

中でも調査より心配されていたのは、近年、子供の幼少期からのゲームへの接触が増加傾向にあるとの事で、子供の気持ちをなだめる為の手段として、親がスマートフォン等を預ける事が依存の始まる要因の1つでもあると記されておりました。なかなか難しいことですが親としての自覚意識が一番に大切になるだろうと感じます。

成長期での脳への影響も考えられるそうで、暴力的なゲームを長時間続けたり、刺激的な映像を長時間見続けたりすると、他人の痛みを感じる中枢は鈍くなり、自らの痛みを感じる中枢は過敏に反応して攻撃的になるとの心配要因もあるようです。

近年、科学技術の進歩やITの展開が目立って来ている世の中ですが、機械の技術に溺れる事のないう、利便性を得る為には、使用する側に人間らしい心が存在かつ維持されて行く事が望ましいのではないのでしょうか。



## WEEKLY REPORT

いろいろと話しはさせていただきましたが、決してゲーム業界やコンピューター関連に携わる方々に懸念を申し上げている訳ではございません。  
私が申し上げたいのは未来を担う子供達への影響を少しでも緩和できるように大人が道徳感覚を浸透させる意識を持っていなければならないということです。

ロータリーにおいても子供達や青少年に関わる事業をしておりますので、このような心配事を少しでも軽減できるよう対策をとる協力も活動の1つとして考えられるのではないのでしょうか。  
皆様はどうお考えになりますでしょうか？  
本日はここまでとさせていただきます。

### <幹事報告:小澤直之幹事>

2月のロータリーレートは¥110となります。

### <卓話:小林 弘会員>

#### 職業奉仕活動について

1月はロータリーの職業奉仕活動月間ということで、プログラム委員長より卓話の依頼がありました。私は職業人としては第一線を退いておりますが、職業奉仕についてのお話はどうか？と思ったのですが、自社の業務内容や或いは起業時のこと等の話でもと言うことでありましたので、お引き受け致しました。



皆様のご承知の通り、ロータリーの奉仕活動には、大きく五大奉仕活動があります。(以前は四大奉仕)五大奉仕の中で一番説明の難解なのが、職業奉仕であると言われております。後程、私なりの所見を述べさせていただきますが、最初に弊社の業務内容について、お話をさせていただきます。各テーブルに会社案内を置いてありますので参考にしてください。

- ・会社名 株式会社昭和精機
- ・創業 昭和50年10月(創業者38歳)
- ・社員など 23名(内3名パート)と協力会社20数社
- ・業務内容 各種機械の精密部品の受注、製造、販売

一言で機械と申しますが、その種類が非常に多く、大別すると次のようになります。

- ・工作機械(マザーマシン) 切削機と研削機
- ・産業機械 印刷機 ダイカスト機 押出機
- ・建設機械 パワーシャベル ブルドーザー クレーン
- ・その他機械 木工機 ゴム用 油圧 空圧

弊社の製造品は①の部品が約80%であります。

長年事業を行っておりますと様々な事や事件などもありましたので一部を披露いたします。  
機械業界は景気の波が大きく楽な業界ではありません。ニクソンショック、オイルショック、リーマンショック等々の大不況がありました。